

環境プランナー報告書



株式会社 増田喜

1. 環境方針

「地球環境にやさしいリサイクル社会へ貢献するため、
質の高いサービスと安定した原料供給をめざします」

【2006 年度スローガン】

「思いやりと責任のある行動を軸として
お客様満足度120%を目指します」

“お客様に満足して頂けるサービス”を提供することで、
より多くの“リサイクル原料”を収集し、循環型社会に
貢献することが、当社の使命であると考えます。
また、旧来の“持ってこい”という問屋体質から脱却し
“おコシください”のサービス精神あふれる従業員を育て
ていく所存であります。

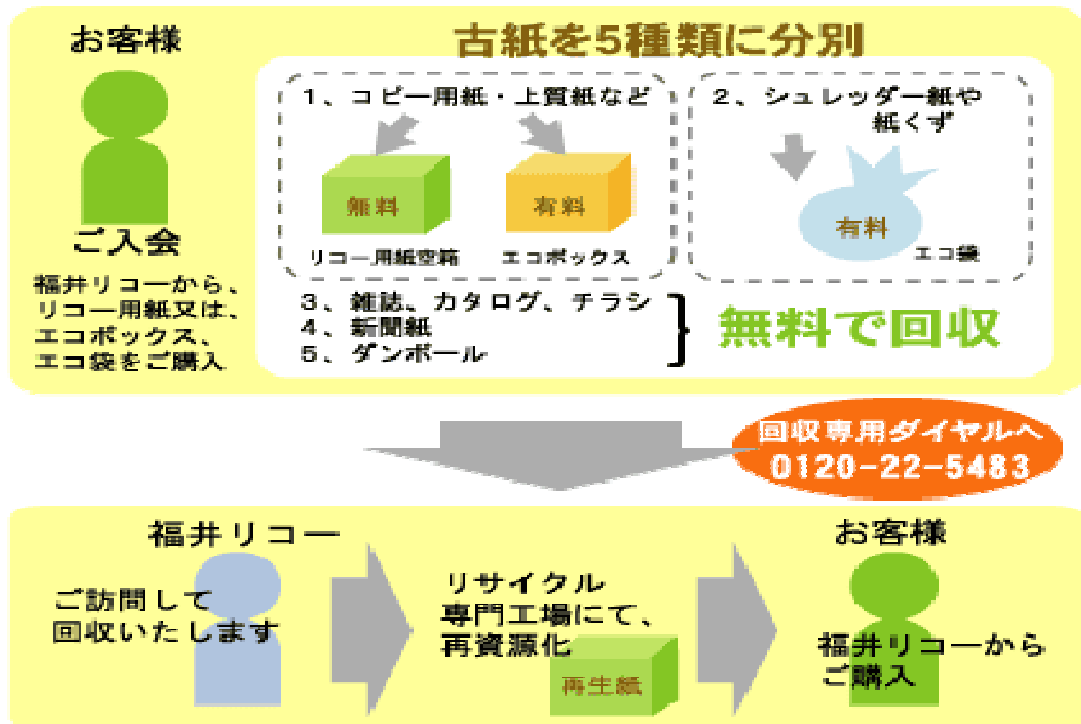


株式会社 増田喜
代表取締役社長 増田喜代治

2. 環境目標とその実績

環境目的	目標	内容(計画)
①古紙回収による 資源の有効活用	回収ルートの効率化による ガソリン燃料の削減	回収件数と走行距離により測定予定 2006 年 8 月スタート
	グリーンサークルの推進	福井リコー(株)と共同して、古紙の分別・回収 プロジェクト前年度比 30%UP(取引組織数)
	出張細断の促進 (機密文書の出張細断 サービス⇒リサイクルへ)	リサイクルが難しいミックス古紙(シュレッダーくず、 カーボン紙など)も再資源化。 1 トン/時間の処理能力で省力化。 前年度比 30%UP(処理量)
②繊維くずの 再資源化	繊維くず(ポリエステル)回収 の事業化	焼却されていた繊維くずを回収し、リサイクルへ。 これまでのノウハウを生かした新規事業。

【グリーンサークルのシステム】



3. 主要な環境活動の内容

地域のみなさん(行政・学校・地域住民など)と行う集団資源回収。

回収BOX(一般の方の古紙持込)の設置。

福井営業所の新設及び制服を一新して古紙回収業のイメージアップ。

エコサポート企業としての従業員教育(班別ミーティング)。

会社周辺における清掃活動(毎週)。

学校における環境教育(リサイクルについて)。



4. 法規制の違反、訴訟

2006 年 6 月現在、環境法規違反及び訴訟はありません。

当社の取り扱う古紙は、専ら再生利用の目的となる産業廃棄物であるため、産業廃棄物処理業の許可は必要ありません。(いわゆる“もっぱらゴミ”)

[廃棄物の処理及び清掃に関する法律]第 14 条・第 7 条

【主要な環境法令】

循環型社会形成推進基本法

騒音・振動規正法・・・プレス機械

大気汚染防止法・・・作業場の粉塵

道路交通法・・・回収車

福井県環境基本・公害防止条例

5. CSR

- ① 工場見学の受入
- ② 従業員待遇の向上(従業員アンケート)
- ③ 安全運転五志の誓い(毎朝唱和)
- ④ 機密文書取り扱い(エコポリス)
- ⑤ 近隣住民への情報公開
(騒音/振動/粉塵の測定)
- ⑥ 北陸において業界初の ISO9001 取得
(2005 年 9 月)



6. 会社概要

会社名 株式会社 増田喜

本社 〒910-0021 福井県福井市乾徳 2 丁目 6 番 6 号(800 坪)

TEL0776-27-2169 Fax0776-27-2168

URL <http://www.masudaki.jp>

営業所 福井営業所(1000 坪) 奥越営業所(2000 坪)

業種 再生資源回収卸売業(古紙類、古繊維類)

資本金 5000 万円 売上 4.5 億円

代表取締役 増田喜代治

従業員 27 名

車両 20 台

【沿革】

昭和21年	創業
昭和24年	(有)増田喜商店設立、再生資源全般を取り扱う
昭和37年	金属原料部門を分離し、北鋼産業(株)を設立
昭和49年	(株)カミ商小松(系列会社)を石川県小松市に設立
昭和50年	勝山市に奥越営業所を開設
平成7年	(株)カミ商武生(系列会社)を越前市(旧 武生市)に設立
平成16年	福田三商(株)(名古屋市)(株)シマダ(富山市)安田紙業(株)(高岡市)と 北陸三商(株)を設立
平成17年8月	機密文書出張細断処理サービス開始
平成17年9月	ISO9001:2000版認証取得
平成18年4月	福井市西開発に福井営業所を開設
平成18年6月	株式会社 増田喜 に社名変更

【主要仕入先】

(株)福井新聞社 福井県民生活協同組合 (株)みつわ等量販店 セーレン(株)
日華化学(株) 広燃産業(株) 福井リコー(株) 官公庁機密文書処理
福井市段ボール・紙製容器回収事業 嶺北一円 集団資源回収

7. 評価・勧告

(株)増田喜の環境活動は、本業の資源回収と密接な関わりを持ち、“環境＝仕事”の関係が成り立っています。このような環境目標の設定は、次のようなメリットがあり高く評価できます。

“環境活動が企業の継続的な発展につながる”

“全社員が積極的に参加でき、長続きすること”

また、地域社会への貢献/従業員教育/積極的な情報公開を通して、業界全体のイメージアップを図ろうとする強い意欲を感じることができました。さらに、静脈産業として50年以上の歴史を持ちながら、新規の事業にチャレンジし続ける姿勢には、感心させられます。

今後、更なる向上を図るために以下の2点を推奨します。

- ① 環境目標を定めたばかりなので、目標に向かってどのような活動を行い、どのように目標をチェックするのか未確定の部分が残ります。よって、PDCAのサイクルを確立して、次の環境プランナー報告書に展開させること
- ② ステークホルダーとしてお客様/従業員/地域住民を強く意識されているので、これらステークホルダーの意見も反映されると、よりバランスの取れた報告書になること

2006年7月7日

環境プランナーER PER(1)0059

大竹 庸人